

# 東京都図書館協会 (TLA) 講演会

## 本と書体のはなし



令和元年 8月26日 (月) 午後3時から

会場：都立中央図書館 4階 研修室 【対象・定員】 TLA 会員 80名程度

講師： <sup>とりの</sup>鳥 <sup>うみ</sup>海 <sup>おさむ</sup>修氏 (書体設計士)

本などを読む際に、存在をほとんど意識しないものの一つが「文字」です。文字は、金属活字から写植、電子活字へと、印刷の方法や表示するメディアの変化に合わせて変化しており、現在も横組みにしても読みやすく美しい文字、モニターに適した文字、作者や内容に沿った文字など、新たな需要が生まれています。さらに今後は、モニター上で高齢者に読みやすい文字への変化を可能にするなど、ユニバーサルなものへの進化が予想されます。今回の講演会では、これからのデジタル時代に文字に期待されること、文字や書体の分類・特徴や文字をつくる過程、さらに、本の制作・出版の過程で採用される文字に関わるお話をいただき、デジタル時代の本や図書館について考える機会とします。

◎講師プロフィール：1955年生まれ。有限会社字工房の書体設計士。同社の游書体ライブラリー、株式会社 SCREEN ホールディングスのヒラギノシリーズ、こぶりなゴシックなどベーシック書体を中心に現在まで 100 書体以上の開発に携わる。字工房として 2002 年に第一回佐藤敬之輔賞、ヒラギノシリーズで 2005 年グッドデザイン賞、2008 東京 TDC タイプデザイン賞を受賞。著書に「文字を作る仕事」(日本エッセイスト・クラブ賞受賞)、「本をつくる」(共著)がある。武蔵野美術大学視覚デザイン学科非常勤講師、京都精華大学客員教授。

◇著書：『文字を作る仕事』晶文社 2016

共著『本をつくる 書体設計、活版印刷、手製本 - 職人が手で作る谷川俊太郎詩集』河出書房新社 2019 など

◇新聞記事：「本の仕事場 字に表情生み出す」2019年5月20日読売新聞夕刊

### ◆ 都立中央図書館 交通案内図 ◆



- ・ 東京メトロ日比谷線  
広尾駅 徒歩 8 分
- ・ 東京メトロ南北線
- ・ 都営地下鉄大江戸線  
麻布十番駅 徒歩 20 分
- ・ 都営バス橋 86 系統 (目黒～新橋)  
愛育クリニック前 徒歩 2 分

当日は、事務用入口 (愛育クリニック側) からお入りください。